

## シンポジウム講演予定

**阿部 淳** (東京大学大学院農学生命科学研究科): 作物学的視点からみた根系形成と個根の発育

**松井啓祐** (京都大学大学院理学研究科植物学教室): 根の形態形成の分子遺伝学

**田坂昌生** (奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科): 側根形成の分子機構 (仮題)

**高橋秀幸** (東北大学大学院遺伝生態研究センター): 根の屈性と植物ホルモン

**谷本英一** (名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科): 根の細胞壁粘弾性と成長制御

**齋原一郎** (富山大学理学部): カスパリー線の発達

**佐藤 忍** (筑波大学大学院生物科学系): 導管液タンパク質の産生と根における遺伝子発現

**山口淳二** (名古屋大学大学院生物分子応答研究センター): 植物の物質輸送と根における窒素源の取り込み

## 訃報

スロバキアの M. Luxova 博士がご逝去されました。Luxova 博士は、スロバキア・アカデミーの植物学研究所の植物生理学部門において長年に渡り研究をされてきた方で、とくに根の解剖学において優れた業績を挙げられました。オオムギの種子根の基部に特殊な形態をした維管束(導管要素)があることを世界で初めて発見し、hydraulic safety zone と名づけられたことは有名です。このことが示すように、とくに根の維管束の分化・成熟や連絡様式、あるいは内皮の解剖学について精力的に研究を進め、機能形態学的な示唆に富む多くのすぐれた成果を挙げられてきました。ご息子の Lux 博士も同じ植物形態学を専攻し、スロバキアの最高学府であるコメニウス大学の理学部で教鞭をとっておられます。個人的に共同研究を進めてきたほか、日本には何回か来日し、鳥取大学乾燥地研究センターの客員も勤められました(今年の7月から再任で来日される予定です)。Lux 博士も内皮や外皮、あるいは維管束を中心にした研究を進めておられます。Lux 博士の奥様も植物生理学者で、お母様が所属されていた植物学研究所の植物生理学部門で研究をされています。

植物学研究所は設立当初より、根の形態と機

能を研究目的の一つとして掲げており、数年に一度、独自に国際シンポジウムを開催し、その成果をプロシーディングとして発行してきました。現在、植物学研究所の植物生理学部門は Luxova 博士の愛弟子であるチャンパロバ博士が引き継いでおり、根のストレス反応性を微細構造の視点から研究されています。以前にスロバキアを訪問したときは、植物学研究所において Luxova 博士の誕生日を記念するシンポジウムが開催され、ご自身も根の内皮の生育段階に関する研究成果を紹介されていました。そのときなお Luxova 博士が研究所のメンバーから尊敬され、大切にされていることがひしひしと伝わってくる集まりでした。根の解剖学という非常に重要なテーマについて多くの優れた研究成果を挙げられてきた研究者がなくなったことは非常に残念ではありますが、簡単に紹介させていただきましたように、その根の研究の流れはスロバキアの中で確実に引き継がれており、その一部は日本の研究者とも密接な関係をもつに至っております。

以上、Luxova 博士とその環境をご紹介させていただき、ご冥福をお祈り申し上げます。

(森田茂紀)